2019 年

１２月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課（農業革新支援センター）の取組～

岐阜県農政部農業経営課

２０１９年１２月の普及活動状況ダイジェスト版

多様な担い手づくり

革新支援センター■普及指導員　協同農業普及事業　普及活動研究セミナーを開催

12 月 24 日、普及事業７０年のあゆみを振り返るとともに、普及活動の優良事例を発表する「普及活動研究セミナー」を美濃市内で開催した。

普及事業７０年のあゆみとして、普及指導員ＯＢと生産者によるトークや、若手普及指導員による宣言と岐阜県農業担い手リーダーからの激励のことばなどを通じ、本セミナーのテーマである「普及事業７０年を振り返り、技術を集め、明日につなぐ」ことを普及指導員らが心に刻んだ。

普及活動優良事例発表では、岐阜、揖斐、飛騨の各農林事務所より、新品目の産地づくりや、産地の発展に向け課題解決を図った普及活動事例について発表を行い、普及活動の手法や成果などについて普及指導員や関係者らが共有した。

農業者への指導・支援を通じて農業の持続的な発展や農村の振興を図るため、普及指導員の役割を再認識し、今後の普及活動につなげていきたい。

【上：若手普及指導員による宣言】
【下：揖斐農林事務所より事例発表】

岐阜農林■スマート農業　第４回コンソーシアム会議にて成果を検討

瑞穂市の(農)巣南営農組合では、本年度４月より国のスマート農業技術開発実証プロジェクトに取り組んでいる。

12 月 23 日には、今年度の実証成果を検討するため、第４回コンソーシアム会議を開催、生産者や関係機関など 22 名が出席した。

会議では、スマート農業機械で既存機械よりも作業効率が向上したことや機械を操作する女性オペレーター育成など実証事業により得られたデータや効果の報告を受け、実用上の問題点や次年度の方針について検討した。

農業普及課では、会議に際してデータ収集や分析を行ったが、今回の検討結果を踏まえてプロジェクトの課題を整理し、２年目も実証に向けて関係者とともに取り組む。

【コンソーシアム会議で
実証結果を検討】

西濃農林■新規就農者の確保　管内農業の現地巡回学習会（大垣養老高校）

12月２日、西南濃農業普及事業推進協議会（事務局：農業普及課）は、将来の地域農業の担い手確保・育成を目的に、県立大垣養老高等学校１、２年生の希望者31名を対象とした現地学習会を開催した。

当日は、管内の先進的な農業経営体の(有)ブロメリア・ギフ(花き)(有)福江営農（土地利用型作物)、(株)安立ファーム（肉用牛)、(有)とり沢（６次産業化)、(株)西濃パイロット（土地利用型作物）及び岐阜県就農支援センターの６か所を視察した。参加した生徒たちは、管内のトップレベルの農業経営者の説明に関心を持って聞き入り、多くの質問も出て、将来の担い手の確保につながる学習会となった。

農業普及課は、学習会の企画、連絡調整、開催事務・運営を行った。

【学習会の様子
(株)西濃パイロット】

揖斐農林■指導農業士・青年農業士　　揖斐地区指導農業士会交流会

揖斐地区指導農業士会は、12 月 10 日に青年農業士、県議会議員、町、ＪＡ、農林事務所と、交流会（農場視察、関係機関と語る会）を、21 名が参加し開催した。

【交流会の様子】

農場視察は、元青年農業士の渡邊氏のフランネルフラワーを主とした鉢物経営を視察した。希少価値と丁寧な作りで高単価を維持しているところが参考になった。

関係機関と語る会では、指導農業士・青年農業士から地域の農業の課題として、担い手不足、既存農家への支援の在り方（ハード事業、農村景観維持等）、技術の伝承、豚コレラ風評被害対策が挙げられた。出席いただいた県議からは、地域農業が疲弊しないよう応援していくと力強い言葉をいただいた。今回の交流会は、農業士と関係者が一堂に会し意見交換するたいへん良い機会となった。

今後も、揖斐農業・農村の活性化に向けた活動を行っていく。

中濃農林■家族経営協定　後継者を加えた３世代家族経営協定を締結

12 月 16 日に、関市内の肉牛農家（繁殖・肥育一貫経営）が、新たに後継者を協定者に加え、３世代にわたる家族経営協定の締結式を行った。

【締結式を終えて】

この畜産農家は、10 年前に親子で家族経営協定を締結したが、４年前から経営主の子（後継者）が就農した。元号が令和に代わり、後継者が農業者年金の加入を検討しているこの機会に、農業者年金の国庫助成など家族経営協定の制度上のメリットが後押しし、３世代にわたる協定を新たに締結するに至った。締結式後には、親、経営主、後継者の３世帯が力を合わせて経営の更なる効率化を図り、安定した肉牛一貫経営の一層の発展を誓う抱負が語られた。

農業普及課では、今後も農業経営支援などを通じて家族経営協定が意義深いものとなるよう、支援を継続する。

可茂農林■農業担い手リーダー　井戸「畑」会議

11 月 29 日、「農業の現場を学ぶ出前講座」の一環として、加茂農林高等学校において井戸「畑」会議が開催された。就農に関心を持つ高校生 19 名が参加し、可茂地区指導農業士、女性農業経営アドバイザーおよび青年農業士 15 名と意見交換を行った。

【井戸「畑」会議の様子】

４年前より農林事務所と指導農業士会が共同開催してきたが、今年度は女性農業経営アドバイザーからも農業高校との交流希望があがった。農業高校から若手農業者との交流も希望されたため、青年農業士も含めた３組織の農業者が参加することになった。

会議はワールドカフェ方式で和やかに進められ、高校生は自身の夢を語ったり、農業担い手リーダーの実際の経営の話に耳を傾けたりして、熱心な意見交流がされた。終了後にそれぞれから感想が述べられ、３年間連続して参加している高校生からは、この意見交換をきっかけに県農業大学校への進学を決めたとの話があった。

今後も、農業担い手リーダーの活動を積極的に支援するとともに、将来の重要な担い手である農業高校生の活動についても支援を継続していく。

恵那農林■夏秋トマト・スマート農業　３Ｓシステム新規導入農家への研修会を開催

【３Ｓシステム準備の要点を確認】

恵那管内では、県が開発したスマート農業技術「３Ｓシステム」による夏秋トマト栽培が拡大している。来年度も９名の新規栽培予定者がいることから、12 月 13 日、新規栽培者向けの研修会を開催した。

研修会では、既に３Ｓシステムを導入しているトマト生産者圃場で施設設置の概要について確認した後、今後の準備におけるスケジュールや準備の要点について農業普及課から説明を行った。今後は、来春の栽培開始までに同様の研修会を継続実施し、栽培準備が遅れないような支援を行っていく予定である。

なお、令和２年度には、３Ｓシステムによるトマト栽培がトマト栽培面積の約１割を占める見込みであり、農業普及課では、導入農家が目標単収 20ｔに到達できるよう、引き続き支援を強化していく。

売れるブランドづくり

郡上農林■普及活動成果発表　郡上市農業振興大会にて夏秋トマトの取り組みを発表

【成果発表の様子】

12月7日郡上市美並町の日本まん真ん中センターで、郡上市内の農業者や関係機関職員等350名が参集し、2019郡上市農業振興大会が開催された。農業普及課からは、普及活動成果として「夏秋トマトの就農支援と栽培技術の向上」と題し、郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会や郡上トマトの学校に対する支援について報告した。

夏秋トマト部会では、若手の新規部会員が増加していることから、就農１～２年目の部会員を重点的に巡回指導した。また、技術部会員が取り組んでいる遮光資材・新品種の検討、岐阜県ＧＡＰ取得への支援について紹介した。郡上トマトの学校に対しては、座学や栽培技術支援を行うことにより単収が向上したことを報告した。

農業普及課では今回の発表を通じて、郡上地域における夏秋トマト栽培に対する支援状況をＰＲすることにより、生産者の増加と産地の活性化を期待している。

東濃農林■アスパラガス　栽培技術研修会を開催

【研修会の様子】

農業普及課では、12月5日に瑞浪市の生産者ほ場で今年度2回目となる「アスパラガス研究会」の研修会を開催し、生産者と関係機関を含め15名が参加した。研修会では、農業普及課から、アスパラガスの残茎処理など秋から冬にかけての栽培管理のポイントを説明し、栽培技術研修を行った。

また、今回の研修会では、実際にアスパラガスの残茎の刈り取り実演を行うとともに、新規に栽培を始める方に向け、各生産者が実際に行っている播種、育苗、定植等についての栽培管理を紹介しながら、参加者間で積極的な意見交換や検討が行われた。

農業普及課では、引き続き夏期の安定生産に向けた栽培研修会や新規栽培者を対象とした研修会を開催し、東濃地域のアスパラガスの生産拡大に向け支援を行っていく。

下呂農林■水稲　「米・食味分析鑑定コンクール；国際大会」で下呂市の生産者３名が受賞

11 月 30 日、12 月１日に、千葉県木更津市において「第２１回米・食味分析鑑定コンクール；国際大会 in 木更津」が開催され、5,137 点が出品された。

「国際総合部門」では 42 点（うち飛騨地域から 12 点）が最終ノミネートされ、最終官能審査により金賞 18 点が決定、うち飛騨地域から６点が受賞した。

【表彰式の様子】

下呂市の生産者では、「国際総合部門」において馬瀬ひかり生産組合の川口太三氏が金賞を、(資)源丸屋ファームが特別優秀賞を受賞したほか、「栽培別部門 低・中アミロース米の部」で（資）源丸屋ファームが特別優秀賞、「小学校部門」でも馬瀬小学校が昨年に続き金賞を受賞した。

管内生産者は、本年も全国各地で開催された食味コンクールにおいて金賞を多数受賞しており、地元では相次ぐ受賞の知らせに喜びが広がっている。

農業普及課では、今後も生産者に対して美味しい米づくりに対する一層の意識向上を図るとともに、管内に毎年設置する栽培実証ほ場で収集する各種データや各種コンクールへの出品結果の分析等を通じて、更なる食味向上の取り組みについて支援を継続する。

飛騨農林■担い手　研修生と先輩農業者との意見交換会を開催～第６回飛騨就農支援塾～

飛騨地域農業再生協議会内に設置されている担い手プロジェクトは、12 月４日（水）に飛騨就農支援塾として先輩農業者との意見交換会を開催した。

まず、飛騨蔬菜出荷組合長から産地を維持・拡大することの大切さや、経営者となる心構えについての講話があり、次に就農２年目と３年目の先輩農業者２名から就農時に苦労した点等の体験談が話された。

【活発な意見交換で悩み解決】

その後、支援塾の出席者 25 名、先輩農業者、支援機関職員で意見交換会を行い、将来の営農ビジョン、就農に向けての悩み等情報共有し、先輩農業者からアドバイスを受けながら活発な意見交換が行われた。

農業普及課では、研修生が悩みを抱え孤立することなくスムーズに就農し、早期に経営が安定するよう関係機関と連携し支援を行っていく。